

平成27年2月26日
国土交通省中部地方整備局
名古屋港管理組合

名古屋港高潮防波堤(改良)概成式典の開催について

名古屋港高潮防波堤は建設から50年が経過し、老朽化が著しいことに加え大規模地震時には大きく沈下し、その高潮からの防護機能が十分果たせないことが想定されることから、平成25年度より老朽化対策とともに最大クラスの地震・津波に対しても粘り強く効果を発揮するよう改良を実施してきました。

今般、本高潮防波堤が平成27年3月に概成することとなりましたので、広く本事業の内容やその効果をより多くの方々に知って頂くことを目的に概成式典を開催致します。

なお、本式典と併せて国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」の建造10周年を記念し、同所所属海洋環境船「白龍」と併せて一般公開を実施致します。

【式典】

- 名称 名古屋港高潮防波堤(改良)概成式典
- 日時 平成27年3月7日(土) 10時30分～11時15分
- 会場 名古屋港湾会館 2階 第一会議室(名古屋市港区港町1-11)
- 主催 中部地方整備局、名古屋港管理組合
- 式次第及び主な出席者 別紙のとおり
- その他 式典終了後、11:30～12:30を予定として、式典参加者及び報道機関の皆さまを対象に現地視察を行います。参加を希望されます方は、別添の申込書により事前申込みをお願い致します。

現地視察参加申込み期限：平成27年3月2日(月)15時

※当日は以下によりブリーフィングを行います。

第1回 10時15分～10時25分 場所：名古屋港湾会館3階第4会議室

第2回 11時15分～11時45分 場所：名古屋港湾会館3階第4会議室

【浚渫兼油回収船清龍丸・海洋環境船白龍 一般公開】

- 日時 平成27年3月7日(土) 10時00分～15時00分
- 場所 名古屋港ガーデンふ頭 2号岸壁

配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾
空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

総務課 岡本(おかもと)、竹中(たけなか)

TEL 052-651-6266 FAX 052-652-0303

取材申込書

平成 27 年 3 月 7 日(土) 高潮防波堤(改良)概成式典、視察及び一般公開

| | | |
|---|------|-----------------------------|
| 会社名及び部署名 | | 会社名: _____ 部署名: _____ |
| 取材者 | 式典 | 代表者氏名: _____ 役職: _____ |
| | 視察 | |
| | 一般公開 | |
| | 式典 | 同行者氏名: _____ 役職: _____ |
| | 視察 | |
| | 一般公開 | |
| | 式典 | 同行者氏名: _____ 役職: _____ |
| | 視察 | |
| | 一般公開 | |
| <p>※取材者は、全員の氏名・役職をご記入下さい。 ※式典・視察・公開の該当する取材項目に ○ をお付け下さい。</p> | | |
| 連絡先 ※代表者の連絡先を記入願います。 | | 電話番号: _____ FAX番号: _____ |

申込締切り: 平成27年3月2日(月)15:00必着

※港内視察においては、取材希望者多数の場合締め切り前でも受付を終了させて頂く場合がありますのでご了承下さい。

※天候の状況により、中止する場合があります。中止が決定した場合は、当日の9:00頃迄に連絡させていただきます。

※乗船に関する詳細は参加をご希望される代表者の方に別途お知らせ致します。なお、乗船に際しましてはお席のご用意がございませんのでご承知おき願います。

送付先: 国土交通省 中部地方整備局

名古屋港湾事務所

FAX番号: 052-652-0303

■名古屋港高潮防波堤(改良)概成式典

(次第)

1. 開会
2. 式辞 中部地方整備局長、名古屋港管理組合管理者 名古屋市長
3. 来賓挨拶
4. 来賓紹介
5. 祝電披露
6. 事業概要説明
7. くす玉開披
8. 音楽演奏 愛知県立名古屋南高等学校
9. 閉会

(主な出席予定者)※順不同

- 国会議員
- 名古屋港管理組合議会議員
- 愛知県議会議員
- 名古屋市議会議員
- その他、関係市村長、港湾関係団体、企業 他

高潮防波堤の建設と名古屋港の発展

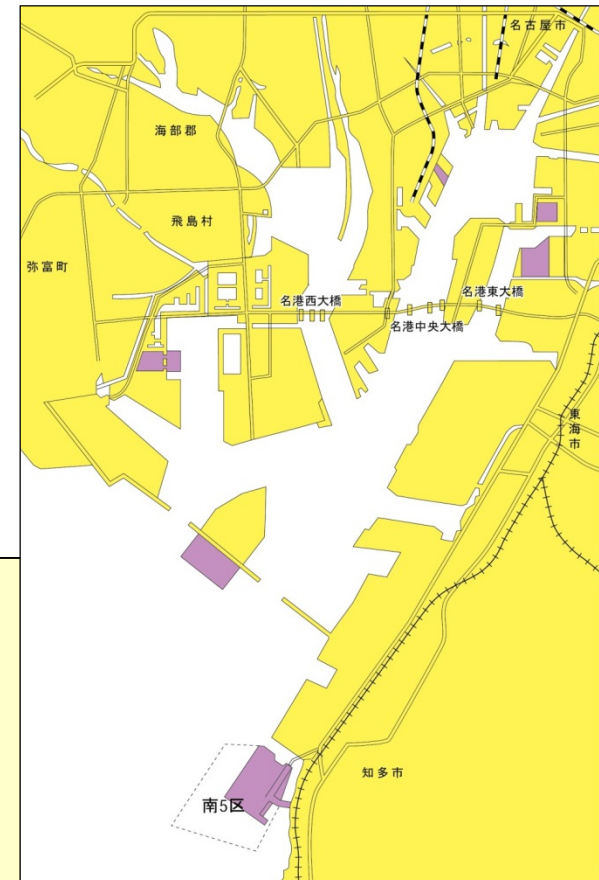
- 昭和34年伊勢湾台風が中部地方を襲い、気象観測史上最大の台風被害をもたらした。
- その後、台風対策として総延長8,250mの高潮防波堤が建設され、名古屋港には広大な静穏水域が広がった。
- 一方この頃より、海外との貿易が盛んとなるとともに、船舶が大型化していった。
- そのため、広大な水域を浚渫し大型船の航路を確保するとともに、その浚渫土砂を活用し臨海部に広大な土地が造成され企業が進出している。現在では、名古屋港に約1,170もの事業所が立地。
- 名古屋港は、総取扱貨物量や貿易輸出額において全国 1位となるなど、中部圏の生産活動や物流を支えている。



高潮防波堤
昭和39年(1964年)完成



- 背後に位置する名古屋市人口の変化
昭和35年(1960) 平成25年(2013)
159万人 →【 1.4倍】→ 227万人
- 名古屋港の総取扱貨物量の変化
昭和35年(1960) 平成25年(2013)
1700万トン →【12.3倍】→ 2億800万トン



■ : 1961~1970年造成

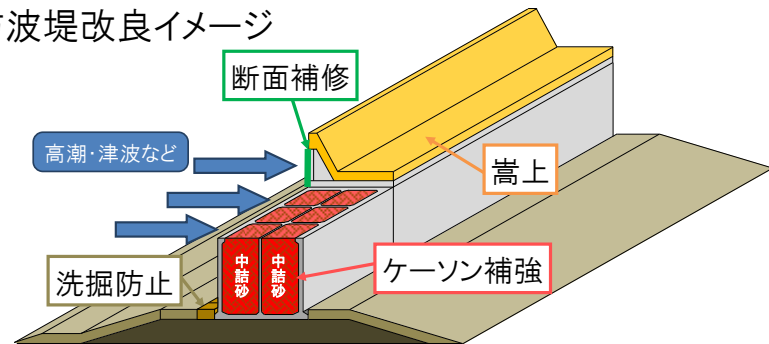
■ : 1991年~現在造成

名古屋港高潮防波堤(改良)による整備効果

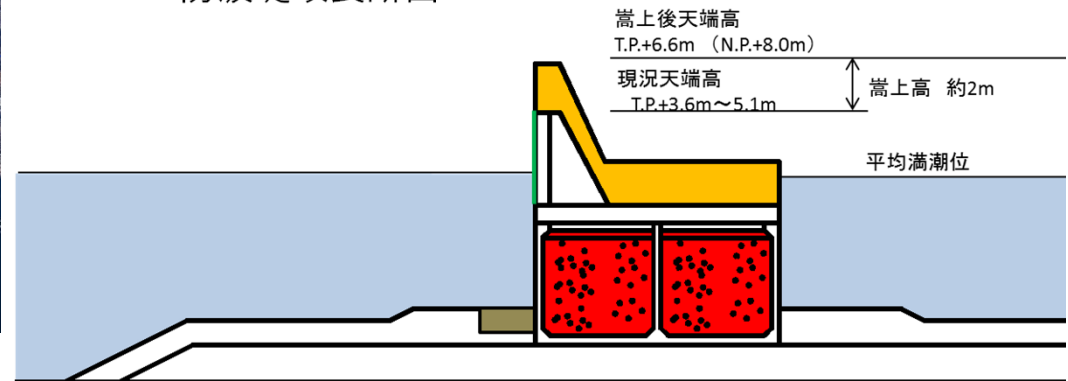
- 建設後50年が経過した高潮防波堤は、老朽化が著しいことに加え、大規模地震時には液状化により大きく沈下し、機能を果たせないことが想定されている。このため、「ケーソン補強」「嵩上」「断面補修」「洗掘防止」などの改良事業を延長約4.5kmで実施中。平成26年度末に概成。
- 東海・東南海・南海地震の発生の際は、液状化により2m程度の防波堤沈下を想定している。改良後は、この地震直後に伊勢湾台風クラスが来襲した場合、その高潮に対して、本来の防波堤の機能を果たす。
- 加えて、南海トラフ巨大地震の発生の際は、液状化により3m程度の防波堤沈下を想定している。改良後は、この地震により発生すると考えられる津波が来襲したとしても、防波堤を越流することなく、粘り強く効果を発揮する構造となる。
- また、高潮防波堤により、港内の高潮・波浪を低下させ、海岸堤防の高さを低減することができる。



■防波堤改良イメージ



■防波堤改良断面



※ 南海トラフ巨大地震(H24年8.29中央防災会議公表)を想定
※ 高さは「東京湾中等潮位T.P.」で表示 (T.P.=N.P.-1.41m)